

町田市の図書館評価

2022年度事業の評価結果

2024年2月

町田市立図書館

まえがき

1 町田市立図書館における図書館評価の取り組みについて

町田市では、2008年6月の図書館法改正を契機として、図書館評価に取り組んでいくこととしました。改正内容に、図書館自身はその運営状況を自己点検し、改善するとともに、関係者へ積極的に情報提供を行う内容が盛り込まれたためです。

2009年度から2013年度の5カ年を第1期の計画期間とし、5年間で到達すべき目標を設定しました。また、評価項目ごとに単年度の取組目標を毎年度設定し、その達成状況を自己評価しました。

2014年度から2018年度の第2期図書館評価は、2013年4月に策定した『図書館事業計画』を基に活動指標を選び、当該年度の実績と取組を記入しました。

2019年度から2023年度の第3期図書館評価は、図書館事業計画の後継計画である『町田市生涯学習推進計画2019－2023』の項目を評価対象とすることとしました。『町田市教育プラン』や、『効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン』ともリンクしているため、町田市の図書館が、この数年間で取り組みたい項目が具体的に示されていて、目標設定もされているためです。

外部評価については2009年度から町田市立図書館協議会（以下「図書館協議会」とする）に依頼しています。

図書館協議会による外部評価『町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告』（以下「外部評価報告書」とする）は、この報告書の最後に掲載しました。個々の事業に対する外部評価は、「外部評価者のコメント」として各シートの該当箇所に記載されています。2023年度も限られた時間の中で、図書館協議会の皆様には真摯に協議を行っていただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2 図書館協議会からの提言について

先に記した外部評価報告書の中で、図書館に対して提言を3点いただきました。これらの提言を活かして今後の図書館運営に取り組んでまいります。

① 図書館予算、資料費の確保

図書館に関わる予算、資料費の確保は、図書館にとって大事な課題のひとつであると考えています。市の財政は今後も厳しい状況が続くことが見込まれますが、効率的・効果的な運営体制の構築を進めることで、資料購入費を少しでも多く確保できるよう努めていきたいと考えています。

② 評価の枠組みの検討

今年度で『町田市生涯学習推進計画2019－2023』が終了するため、次期図書館評価は『町田市教育プラン24－28』を中心に検討することを考えております。そこにアウトプット、アウトカム指標をどのように組み込んでいくか、並びに評価の検討方法については、より良い方法を検討したいと考えています。

③ 事業改善に向けた取組

いただいた外部評価の内容は各担当で確認し、適宜反映するようにしております。なかなか改善できない事業もありますが、引続き貴重なご意見として活用させていただきたいと思っております。

3 むすびに

第3期4年目の図書館評価となりました。新型コロナウイルス感染症の影響が減少していく中、再開できた事業、新たに取り組むことができた事業がありました。しかし、以前の利用状況に戻り切っていない一面もあります。今後もより多くの方が本に親しめる環境を作り、市民に役立つ図書館、利用される図書館をめざして、さまざまな取組を行っていきます。

今後とも町田市立図書館をよりよくするために、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2024年2月

町田市立図書館長
中嶋 真

目 次

■まえがき	3
-------	---

■評価項目

取組番号（『町田市生涯学習推進計画2019-2023』より）

2-3	子ども読書活動の推進	6
2-4	学校図書館との連携強化	8
2-5	生涯学習施設の利用促進	10
2-6	読書普及事業の充実	12
2-7	シニア世代向け事業の充実	14
2-8	障がい者サービスの充実	16
2-9	図書館資料による情報提供機会の充実	18
3-8	レファレンスサービスの充実	20
4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援	22
4-7	図書館運営の地域協働化の促進	24
5-2	本と出会う場所の創出	26
5-5	図書館利用者の利便性の向上	28
5-6	地域資料の活用の推進	30
5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施	32
■町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告	（町田市立図書館協議会）	34

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2022年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催しました。 ・町田市子ども読書活動推進計画推進会議は、委員による事業報告の事前確認により、以前よりも効率よく会議を進めることができました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語児童書の充実に向けてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約6,800冊となり、目標値を大きく上回りました。 ・「英語多読コーナー」を、2023年2月10日に3館（さるびあ図書館、金森図書館、堺図書館）に新たに設置しました。これにより、既存の3館（中央図書館、鶴川駅前図書館、忠生図書館）とあわせて予定していた6館に設置することができました。 ・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け英語絵本の読み聞かせ講演会、ボランティア・職員向け英語絵本読み聞かせ研修会、10代向け英語多読講演会を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、現状の課題や問題を分析し、今後の方向性を検討する必要があります。 ・読み聞かせでの利用や英語多読初心者に適した、外国語の絵本・児童書を充実させる必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、第四次町田市子ども読書活動推進計画計画の推進を図るとともに、第五次計画の策定について検討します。 ・読み聞かせや英語多読で使用できるように、電子書籍を含め外国語の絵本・児童書資料を引続き充実させます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・市民や若者の読書離れが進んでいる中、一定の企画推進が行われています。今後もこれらを継続してもらいたいと思います。
- ・「推進会議」を目標回数開催したことは評価できますが、昨年度も指摘があったとおり、どのような内容が討議されているのか、その年度ごとに中心議題となった内容についても触れるべきかと思います。
- ・ふるさと納税の活用により、外国語の絵本・児童書が蔵書目標を上回ったことは高く評価できます。
- ・英語多読活動については引き続き継続し、「えいごのまちだ」の実現を図ってほしいです。「英語多読コーナー」の増設により、利用状況の上昇が確認され、利用者のニーズに 대응できていると判断できます。音声付き電子書籍の導入なども「多聴多読」の目的のためには有効な資料であり、今後の動向に期待が持てます。
- ・多読に関する講演会はほとんど定員が埋まっています。このことは図書館の利用者に多読が認知、周知されていると評価できます。

【関連事項提言等】

- ・「えいごのまちだ」推進に伴い、日常生活に英語の浸透を促すため、国際交流センターとの連携により、市内施設の多くの表記を英語併用にするなど、一層の努力を期待します。英語と事物（絵）のカードなどを配布し、学校や生涯学習施設で活用できると良いと思います。
- ・多読に関する講演会には50代以上の参加者が多いようですが、「子ども読書活動の推進」の中の活動としていることを考えると、子どもにもっと参加してほしいと思います。そのためにも、今以上に子どもに認知してもらえるように工夫をしていく必要があると思います。
- ・「多聴多読」は一つの学習方法であり、他の観点からの資料の収集も視野に入れるべきかと考えます。
- ・英語のみならず多言語理解・多文化理解について一層力をいれてほしいです。目標にも「外国語」とあり、この評価でも例年指摘されているとおり、英語ばかりでなく「町田に住む母国語が日本語でない人たち」に向けた多言語への取組みも当然求められるべきものかと思います。

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
------------------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①学校図書館支援貸出利用校数		35校	42校	
	②学校図書館支援貸出数		3,768冊	4,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	学校図書館支援貸出の実施				
	新たな支援 内容の検討	貸出方法等の改善 新たな支援の実施			支援内容 の検証
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

<2022年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援貸出は26校に実施しました。 ・学校図書館への連携サービス改善のため、公立小・中学校へ学校図書館支援に関するアンケート調査を実施しました。また、町田市小学校教育研究会図書館部の教員に対して、学校図書館に関するヒアリングを実施しました。
達成状況 (指標②)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援貸出の冊数は、2,884冊でした。 ・2022年10月から開始した電子書籍サービスを学校でも活用できるように検討しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館と連携をとりながら、学校図書館支援に関するサービスの改善に努める必要があります。 ・アンケート調査やヒアリングから、貸出依頼時に選書などに時間がかかり、利用しにくいことがわかりました。 ・電子書籍サービスを学校で活用する場合の実施方法を検討する必要があります。
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援に関するアンケート調査の結果から、学校図書館支援貸出に関する改善策を検討していきます。 ・引き続き、学校図書館支援貸出、研修会の協力、団体貸出資料の配本サービス等を行い、学校図書館との支援や連携に努めていきます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- 学校図書館支援貸出が26校と、昨年から2校減少という結果になりました。学校図書館との連携強化という観点から、貸出校数を増加させていく必要があると考えます。
- 学校図書館支援に関するアンケート調査の実施及び小教研図書館部の教員に対するヒアリングにより、現場の声や要望が届いたのは良いことと考えます。今後はこれらの要望に沿うための方策を考え実施していくことが期待されます。
- 学校図書館への支援貸出冊数は前年度比300冊増となり、増加傾向にあることは成果だと考えます。ただ、年度目標冊数からは遠く及ばないので、目標値に少しでも近づけるための施策を考え、実施する必要があると考えます。
- 電子書籍サービスの学校活用については一定の効果や需要が見込まれる結果となったので、今後は電子書籍数を増やし、学習活動での利活用に十分耐えうる書籍の質と量の確保をお願いしたいと考えます。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件		
	②SNS発信数	219回	800回		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習部所管施設のほか、子どもセンターや小中学校、高校、大学、専門学校、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィス、町田国際交流センターなど他施設との連携・共催事業を、自由民権資料館で7件、図書館で3件、文学館で14件、生涯学習センターで28件の合計52件実施し、施設の相互PRに務めました。 図書館では、移動図書館車がシバヒロや芹ヶ谷公園のイベント、保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> Twitterによる情報発信を自由民権資料館で56回、図書館で108回、文学館で768回、生涯学習センターで78回、文学館ではInstagramによる情報発信も50回実施し、合計1,060回のSNSによる情報発信を行いました。 図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2022年度には2021年度から148人増加し、1,478人になりました。 生涯学習センターでは、学生活動報告会「ガクマチEXPO」のPRを、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィスと連携して行い、相乗効果により生涯学習センター公式Twitterに10,000件を超えるアクセスがありました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の特徴を知ってもらい、未利用者に向けた事業や施設のPRが必要です。 Twitter以外のInstagramなどのSNSの効果的な活用方法の研究が必要です。 連携したPRのためには他施設や関係する機関との情報共有が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 施設の愛称募集や新規講座の実施など、施設の魅力向上のための取組を進めます。 SNSとHPの連動やTwitter以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 2022年度に連携した他施設等を中心に早めに情報共有を図り、事業の実現を進めます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

- 【評価】
- ・他施設との共催事業が3件と少ないようですが、移動図書館をフルに活用し、その存在を市民に伝えることで利用促進を図ったことが評価できます。
 - ・全体に移動図書館を中核として、アウトリーチの工夫がうまく機能していると思いますので、今後とも一層の充実を期待します。
 - ・SNSでの情報発信を怠らず、それがフォロワーやアクセス数増加につながっているということを見ると、とても意義のある活動だと思いますので、これからも続けてほしいです。
 - ・X（旧Twitter）のフォロワーが増加してはいるものの、SNSとしてこの数字はいかななものかと思わざるをえません。そのため、連携の必要があると考えます。
- 【関連事項提言等】
- ・X（旧Twitter）での情報発信は、行事の告知などが多いようですが、特集コーナーといった「図書館の日常」のようなものを他市の図書館のように発信してみてもどうでしょうか。
 - ・SNS利用者が若年層に多いことから、中高生に人気がある図書の発信をSNSで行うといった、ターゲットを絞った発信も考えられるのではないのでしょうか。
 - ・SNSの発信も必要ですが、紙媒体での情報発信も滞ることなく進め、どちらかに偏ることがないようにしてほしいと思います。
 - ・移動図書館は図書館の強みです。大いに利用し、動画配信などを行うことで子どもの保護者にアピールができるはずです。利用者に直接接することで、SNSでただ情報発信をするよりも、情報発信のヒントにつながると思います。フィードバックを丁寧に行ってください。
 - ・市民の協働や企業とのコラボなど、これまでにない方向も検討してほしいです。

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われてい ます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館 に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化しま す。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、 中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラ リー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録 につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の 実施・ 検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・
文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した483名へミニプレゼント を渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しまし た。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は 273組682名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員に なってみよう！」を実施し、14名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一 日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥青少年映画会”Yシネ マ”を実施し、10代の参加は9名（総観客数は33名）でした。⑦中高生向け回遊型 謎解きイベント「まちクエ2022*」を実施し、41名の参加がありました。⑧MSP （町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみちや う!？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイイベントを行いま した。⑨「ひとことPOPコンテスト2022」を実施し、書店や地域文庫に周知や審査 に協力してもらうことができました。作品は、90名からの応募があり、最優秀賞1 名、優秀賞2名、また、応募作品全体から図書館長特別賞が2名選ばれました。⑩ 「英語多読で推し活がはかどります!」は7名の参加があり、趣味を楽しむための方 法としての英語多読講演会を行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対 象に、「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、887点の応募があり ました。
課題	・今後も中高生世代が読書や図書館に興味を持つよう、若者の意見を聞く必要があり ます。
今後の取組の 方向性	・ボードゲーム大会を中心に、MSPやさがまち学生Clubなどからの提案を具現化す るため、若者の参画を進めていきます。 ・今後も内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。
*まちクエ2022：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的
な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・年度目標の4事業を上回る11事業の実施に、読書不普及に向けて大変努力されていることが伺われます。毎年度の課題でもあった効果的なPR方法、当事者であるYA世代の意見聴取や参画の取組、学校・地域文庫・書店との連携事業、など前年度の反省を活かしたことの効果が上がっていることは高く評価できます。・小学生以下の子どもの読書のきっかけ作り、小学生、YA世代対象の図書館の仕事体験、中高生を対象とした興味をひきやすいイベント、子どもたちの自由な表現の場等の数々の事業は図書館の存在感を高め利用促進につながる意義ある事業です。参加者の感想などを見ると概ねよい評価となっています。参加者の声を取り入れ、PR方法を検討するなどして、今後も気軽に図書館を利用できるよう検討してください。・「わいわいキャレル」の利用が大幅に増加したのはリピーターだけでなく、新規利用者も増加したためとのこと。利用することでその良さが実感できるのであれば、利用者の声を反映する仕組みや新たなPR方法（全校配布等）、平日の開催、席数の増加、音が影響しない配慮等を検討し更なる利用促進を期待します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・事業により定員がすぐに埋まるもの、割れるものとあり、事業数と内容の検証が必要と感じます。・学校に行かない選択をしている子どもたちにも情報が届くよう、居場所機能のある活動団体との連携も視野に入れた検討を期待します。・小中高生が読書や図書館の魅力を話せる「語り部」となれるような企画を開催出来ると広がりが出てくると思います。
----------------	---

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<p>以下の5事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールにおいて、講座「図書館を活用した調べ学習」「著作権/出典・引用の扱い」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・鶴川駅前、金森、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・デジタルデバイス解消事業として、はじめてのスマホ体験（10月～11月）、スマートフォン・タブレット個別相談会（11月～3月）、セキュリティ講演会（11月）を実施しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会において、利用率が全体で52%に留まってしまったため、周知方法を含め、検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・特集展示について、情報を常に提供できる方法を検討します。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会について、周知方法・募集方法を見直し、利用率の向上を目指します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・シニア世代向けに、住み慣れた地域で生き生きと健康に暮らせるための取組として、前年度より2事業増やし5事業実施したことは高く評価します。また、生涯学習センターとの共催での開催というコラボの事業展開は欠かせない要素であり評価します。リアルとデジタルの両面の視点もバランス良く盛り込まれている事業内容は、間口が広く良いと思われま。・デジタルデバインド解消事業では申込者が定員を超えるなど多くの方が参加し、ニーズの高さが伺えます。それに応えるべく事業数と内容を増やしていることは評価できます。・例年行われている「ことぶき大学まちだ探・探ゼミナール」は、担当職員も慣れてきて運営、進行共にスムーズで、市民の評価が高い取組といえます。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・スマホの体験会はシニアには人気があるように聞いています。講習の内容も図書館の業務と関連させることにより効果を発揮できるように思います。・デジタルデバインド解消事業については、今後事業数や開催回数を増やすなど、更なる拡大を期待したいです。しかし、高齢者の中にはそもそも必要性を感じていない方もいるので、使い方の講座だけではなく、「コミュニケーション不全による孤立、災害、非常事態時に情報が即座に伝わらない、詐欺や事件に巻き込まれやすい」等のリスクを知らせる等の普及啓発の取組も併せて検討してほしいです。・大人のためのおはなし会は、視力の問題等で活字が読みにくい高齢者が書物に触れるいい機会だと思うので、開催館、回数の増加をぜひ検討してほしいです。
----------------	---

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数			1事業	3事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアDAISYについて、上映会を開催し33名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。 ・ボランティア養成講座「初めての点訳ボランティア」を開催し、18名の参加がありました。 ・リーディングトラッカーの貸出を含め、実施した事業の合計は3事業となりました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーを進めるため、カセットテープによるサービスから転換する方策としてデイジー再生機器*の貸出サービスについて検討する必要があります。 ・引き続きボランティアの養成を支援するような取り組みが必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・デイジー再生機器の貸出サービスについて、情報収集するとともに実施に向けた検討を行います。 ・関連団体等とも協力して、ボランティア養成を進めます。

*テキストDAISY：音声データの入っていないパソコンで読む本のこと。再生機等の音声合成機能でテキストを読み上げさせて聞くことができる。

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">• マルチメディアDAISYの上映会は、利用促進の面では、効果的だと思います。回数を増やし、学校、支援施設、団体等にも出張して広く周知することを期待します。また、図書館のホームページからは、検索しにくいので、工夫が必要です。• ボランティア養成講座「初めての点訳ボランティア」では、定員を上回る申し込みがあったとのことだったが弾力的に受け入れ、丁寧な対応をとれたことは高く評価します。アンケートの実施と結果が詳細にまとめてあり、参考資料としての価値があります。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">• 今後の提案については、視覚障がい者等へ貸出し、相互貸借、肢体不自由利用者へ宅配貸出等の利用促進への対策を検討してください。精神、発達障害の方へのサービスへの視点が欠けているので検討が必要です。全国的にボランティアの高齢化が進むなか、ボランティアを人手不足の補完ととらえるのか、生涯学習の視点でとらえるのかの区別は重要です。必要とされる事業であるならば、有償、無償の検討も必要だと思われます。• まとめに、障がい者へのサービスとして図書館ができること、また、障がい者が図書館に求めること、今後何ができるのかを検討していくこと、が必要であると考えます。障がいのある方がどのように図書館を利用したいのかりサーチして今後につなげてほしいです。
------------------------	---

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
---------------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらおうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を67回実施しました（中央図書館23回、さるびあ図書館3回、鶴川図書館1回、金森図書館1回、木曽山崎図書館1回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館32回、忠生図書館2回）。 ・全館共通テーマに関連した特集コーナーなどの実施を行いました。 ・特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他部署からの特集コーナーの申込が多数となった場合等に、選定する方法を明確にする必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・他部署からの特集コーナーの申込について、様式の改定を含め、より分かりやすい方法を検討します。

<外部評価>

<p>外部評価者のコメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を67回実施したことは、図書館の有用性が認知されており、喜ぶべきことです。本来業務の充実であると評価できます。・活動の実施回数が多くなっています。特集コーナーについて、図書館の利用者は、お目当ての図書があって来館する方もいれば、何か面白い図書はないかと図書を探しに来る方もいます。図書館側が様々なジャンルの特集を組むことで、利用者も図書を選びやすくなります。図書館側も利用者を増やすことにつながります。・全体に、町田市の地域・歴史・文化・人など、地域のリソースを活用した情報発信や情報提供がうまく機能していると評価します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・「本の特集コーナー」について、テーマにより地域館にも広げることで「市の施策」を市内の隅々に伝えることができるようになると思います。・「課題」の申込み多数の場合の判断は、施策面から判断する管理職と、専門知識を持った人との合議で選別すればよいでしょう。「基準」を設けるのは難しいため、お断りする場合は合議の結果をきちんと説明できればよいと思います。・特集を知らせるポップにもっと工夫をこらしたいところです。場合によってはポップ込みで特集の受け入れを考慮しても良いのではないのでしょうか。・「どの本を読もうか」と迷う利用者も多いでしょう。「福袋」が好評であることから図書館から本を薦められることを期待する利用者もいると分かります。せっかく特集で集めたのだから、これらをリスト化し、HPに分かりやすく掲載してはどうでしょうか。SNSの発信の仕方にも関連しますが、特集の面出し写真を外部評価者の意見を添えてリストに掲載すると図書館利用の促進にもつながるでしょう。・近隣自治体とのコラボや相互情報提供・相互情報発信ができるとなお良いと思います。・中央図書館が生涯学習センターとともに、情報の提供機関として、生涯学習施設の取組みやイベントなどの総合的な提供窓口になることも期待します。
-------------------	---

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	レファレンス事例の公開件数	162件	250件		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		事例の公開の振り返り
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例をインターネットで21件公開し、公開件数は延べ279件になりました。 ・国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を20件公開しました。 ・レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 ・パスファインダー「ビジネス編」の改訂を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例の充実が必要です。 ・レファレンスサービスを身近に感じてもらえるような取組が必要です。 ・「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 ・レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 ・「レファレンス通信」やイベント等を通じて、利用者に身近に感じてもらえるような工夫を行います。 ・「パスファインダー」の改訂を行います。 ・レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・前年度とほぼ変わらない取組状況、パスファインダーの改訂等、一定程度目標を達成し、地道に継続していることは理解し評価できます。ただ、毎年同じ課題では改善に向けて努力していることは読み取れません。それぞれの課題に対しても方策を示すべきと考えます。・昨今、ICTがどの家庭でも標準装備となり、レファレンスサービスの受付件数が減ることが余儀なくされている中、目標値を越えたことは評価できます。レファレンス通信にも興味深い事例が掲載されていて面白いです。しかし、年2回の発行や地域館各館や生涯学習センター等の庁内関係課、市内の高等学校への送付のみで、部数は1回あたり300部とはあまりにも少なく、効果的ではないと感じます。対策を検討してください。・レファレンスサービスは断片的な情報から欲しい情報にたどり着く等、担当職員の高度な技術が利用者と情報を結びつける図書館の大切な機能です。今後も人材育成についても更なる努力を期待します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域密着で町田の資料を中心にレファレンス事例を公開していくことは、良い取組だと感じます。今後を期待します。・福井県立図書館のように、「覚え違いタイトル集」などのように、何か面白いコンテンツを公開するなどして、もっと利用者の目に留まる工夫を期待します。
----------------	--

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
--------------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討		新たな支援の実施		
年度目標 (指標①)	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標 (指標②)	30人	30人	60人	60人	90人

<2022年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を2回、「応用編」を1回、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等を4回開催し、計7回開催しました。
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に25人、「応用編」に13人、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等に45人、計83人の参加がありました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主に学校や学童クラブで活動している方に向けて行う講座については、より広範囲の市民に周知できるよう案内の方法を検討する必要があります。 ・図書館のおはなし会で活動しているボランティアに向けて行う講座に関しては、参加者を増やすために講座の内容及び案内の方法を検討する必要があります。 ・地域で活動するボランティアを増やしていくために、新規にボランティアを養成する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各館の担当者と打合せを行い、図書館としてより効果的に実施する方法を検討します。 ・ボランティアに対して、新たな活躍の場の創出や技術の維持向上を図るための支援手法を検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・年度目標に対して開催回数と参加人数ともに目標を達成している状況は、取組が軌道に乗っている証で評価できます。また、講習会が平日開催ということでシニア層や子育て世代のボランティアさんが参加しやすい設定になっていることも良いと思います。・地域で活動するボランティアについては、人材バンクとしての図書館の役割は大事です。また、学校における読み聞かせでも、担当していた人材の高齢化が進み、保護者の協力を得ている状況もあります。活用したい人材を手配したいときに、図書館へ連絡すれば人材の情報が得られるとよいと思います。・2022年度もコロナ禍で活躍の場が確保できないという事情により「おはなし会ボランティア養成講座」は中止となりましたが、実際に読み聞かせに関わる保護者や図書館で働いているボランティアを対象とした、技術の向上や体験する講座を行い、モチベーション維持を図ったことは評価できます。・前年度の取組の方向性として「図書館全館でどのように実施するのが有効か検討する」とありますが、開催場所を中央図書館に集約したことが影響しているのか検証が必要と考えます。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア活動の未経験者に対して、おはなし会の存在や担い手の仕事の魅力を周知する取組を行い、参加機会を増やす施策を希望します。・地域とのつながりこそが利用促進につながりやすいと考えるので、開催場所、回数の再考をお願いしたいです。
----------------	---

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2022年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：202回、乳幼児向け：102回開催）②宅配ボランティア（宅配件数：431件）③音訳ボランティア（音訳資料製作タイトル数：43点）④点訳ボランティア（点訳資料製作タイトル数：18点）⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：279件）⑥イベント企画（イベント件数：2件）の6分野でボランティアの活動がありました。 ・さがまち学生Clubが実行委員の「つながりマルシェin芹ヶ谷公園」に、移動図書館が出展しました。電子書籍サービスキャラクター「ブックロー」のしおり（ぬりえ）を学生が作成し、来場者に配布しました。 ・MSP（町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみちゃう!？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイイベントを行いました。 ・町田市市政モニターアンケートを活用し、「図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて」情報収集を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者に図書館とのコラボイベントを検討・提案してもらい、参画を進めていく必要があります。 ・ボランティアとして、興味のあることに気軽に参加できる環境づくりや研修制度の充実が必要です。 ・市政モニターの結果から本の返却や本棚の整理といったボランティアのニーズが高いことや自分の都合の良い時間で参加出来ると参加しやすくなることが分かったため、これらを踏まえた検討が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動につなげるため、読書や図書館に興味を持つきっかけになるようなイベントの企画・運営を検討します。 ・市政モニターの結果を踏まえたボランティア活動を検討します。

<外部評価>

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 広範囲のボランティアの取組が図書館にあることはもっと評価していいと思います。・ 全体として新たな取組であることから、チャレンジ特有の可能性と課題がありますが、それらをどのように調整してより良いものを実現していくのか、今後の展開が楽しみです。・ ⑥は、SNSの話題などからの推察に過ぎませんが、「企画・運営」という面で他者と関わりたい若年層は潜在的に多くいると考えられることから、まだ始まったばかりで件数としては少ないですが、取組を実現したことはもっと評価してもいいのではないのでしょうか。・ 様々なボランティア活動がある中で、若者が中心となって図書館でのイベントを企画、実施していることがとても良いと思います。・ ボードゲームの企画などから、図書館運営そのものにコミットするような取組が若者を中心に期待できます。・ 基本的にボランティア活動には一定の謝金や経費が必須となっており、それらを有機的に活かすオンラインなどのシステムも必要だと考えます。・ より良い実現のために、市長部局など、他部課の協働や市民プロジェクト型の取組が必要です。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 若者が図書館を利用することが少なくなっているということを踏まえると、その若者の目線から図書館でのイベントの企画、実施等をするのはとても重要だと考えているため、これからも続けていくべきだと思います。・ 地域の市民のアイデアや協働化が実現できるような仕組みを構築したいため、市民の力を結集できるような仕組みやオンライン等の整備、プロジェクト自体の自立性などが求められます。・ ⑥に関して、協働化を「本と人をつなぐ」図書館の役割とどう関連付けることができるかが課題だと考えます。今のままだと、公民館などの施設の取組との差別化ができないのではないのでしょうか。ラーニングコモンズの変形などで対応できる方法を探る必要もあるかと思えます。・ 7番目の活動として、ネイティブによる絵本の読み聞かせボランティアを募ってみるのはどうでしょうか。ネイティブを活用したおはなし会なども考えられると思います。・ 市政モニターに本の返却や整理のボランティアのニーズが高いとされていますが、返却本の確認、書架の整理は利用者のニーズ傾向を知り、自館の蔵書構成の絶え間ない見直しに欠かせない業務であるため、こうした業務をボランティアに委ねることは反対です。
------------	--

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①読書活動推進にかかる連携施設数		20か所	25か所	
	②読書マップの作成		未実施	作成・公開 （2020年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標 （指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標 （指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：『生涯学習推進計画2019-2023』47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

<2022年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況 （指標①）	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進にかかる連携施設数は2か所減少し、23か所となりました。 ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、2023年3月のイベント「本でつながるフェスタ in 鶴川団地 ～本と人とまち～」を開催しました。当日は読書談義や各出展者のおすすめ本の紹介などを実施し、約800人の方々にご来場いただきました。 ・冒険遊び場や保育園など子どものあつまる場所7か所に対し、移動図書館を合計57回出張運行し、資料の貸出・閲覧を行ないました。さらに、市内のイベントに3回参加し、日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。
達成状況 （指標②）	B 目標を達成した
取組状況 （指標②）	読書マップは、2023年2月1日現在の情報に更新した改訂版を作成しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力した取り組みについて、継続して検討する必要があります。 ・読書マップの内容を充実させるため、継続して情報を収集して増やしていく必要があります。 ・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントについて、2023年度も継続します。 ・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・本と出会う場の創出はこれからの市民協働や読書・読書活動・図書館ネットワークの構築のために必要な対応であると考えます。多くの市民がこの活動に共鳴し、ネットワーク構築の主体となると良いと思います。

・読書マップの作成は、図書館以外にも図書を置いてある施設が身近に多くあることを知らせるために大変良い事業だと思えます。しかし、こうした情報は流動的な面もあり、HPなどで、随時更新する工夫が求められます。掲載された拠点とされるところには、ただ寄せ集めの本が置かれているだけで、おしゃべりの場の「本棚」になっているところもあり、きめ細かな検証が必要です。読書マップの情報は集めた後の検証、更新も同じくらい重要です。

【関連事項提言等】

・昨年度も指摘されていましたが、図書館のHPが見にくいいため、せっかくの情報が探しにくい状態です。バナーなど、見せ方の工夫がないと情報に意味がなくなってしまいます。

・個人が開くいろいろな形態の「図書館」「書店」が現れています。このような情報が常に入ってくる情報ステーションとしての機能を持つような体制を公共図書館としてつくるのが重要だと思えます。

・流動的な「本と出会う場所」の情報収集にこそ「ボランティア」を活用してはどうでしょうか。

・少なくなりつつある本屋などとも繋がると面白いと思えます。借りたい本がすぐに手に入らない場合、予約して待つのが嫌なら本屋で購入するなどという方向も必ずしも悪いことではないと思えます。

・移動図書館やデジタル配信など、引き続きアウトリーチの方向を検討してください。

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活手法導入検討 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 導入のための仕様作成と 実施に向けた準備 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 実施 </div>
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年10月から電子書籍サービスを開始しました。 ・図書館で特集コーナーの開設、公共交通機関でのポスターの掲示や飲食店などで名刺サイズ広告の配布依頼など、電子書籍サービスをPRしました。 ・電子書籍サービスの利用促進のため、館内および出張して講座を実施しました。 ・館内貸出用タブレット端末を配備し、デジタル環境をお持ちでない方にも電子書籍サービスを利用可能にしました。 ・市内の小中学生に利用していただけるよう、小中学校との連携に向け担当部署と調整を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・導入直後のため電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。 ・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないという現状があり、電子書籍の選書方針の検討が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。 ・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行うだけでなく、特集を定期的に公開することで、利用を促進します。

<外部評価>

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・電子書籍サービスが計画より1年前倒しでの運用となったことを高く評価します。・電子書籍サービス開始のPRを図書館に限らない複数の場所において実施したことは、図書館を利用していない層へのアピールとしても効果的であったと評価します。・電子書籍利用に関する講座の内容について、反省点はあったようですが、デジタルデバイスの操作に慣れていない人向けに実施をすることは有用なため継続を期待します。・一部での館内タブレット端末貸出しについては、市内全館での運用へ広がることを期待します。また、これはデジタルバйд解消にもつながっていくと考えます。・市内小中学校との利用についての調整は、子どもたちの1人1台端末を有効活用していくことにもつながります。連携が早期に実現するよう調整内容についての詳細説明を求めます。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・電子書籍導入経費については紙の図書より高額であることは否めなく、そのために利用者のニーズをよく把握した選書が望まれます。またアンケート実施等、調査を計画的に進めていくことが必要と考えます。・将来的にはより実用的な電子書籍の活用が進んでいくことが予想されるため、多様な蔵書の早期充実を期待しますが、そのためには町田市の図書費の増額についても検討の余地があると考えます。・インクルーシブな図書館活用の面からも、誰もが利用できる形態を強く望みます。町田市内の私立学校へ出張講座でも手応えを感じられたようですが、今後は外出が困難な不登校児童生徒が、電子書籍で本に出会い、学ぶきっかけを得る可能性もあります。現在の蔵書のうち児童・YA部門が突出して多いことから、町田市教育センターのけやき教室、くすのき教室、市内フリースクール各所へのPR活動も有効と考えられます。
------------	---

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	地域資料 活用のための 計画作成	デジタル化 対象資料の 整理	イメージデータの作成		段階的な 公開
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ公開用の図書館資料の検討を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の資料は時間や利用により劣化してゆくので、保存を急ぐ必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化して保存することにより後世にわたって提供できるよう、企業版ふるさと納税などの補助金を含めた財源について検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・取組がきわめて遅れている項目であるといえます。過年度においても遅れている状況であったにもかかわらず、改善が図られたとはいえません。適切な対応を期待します。・「町田市の図書館評価・2021年度」の同一項目で挙げられていた「課題」や「今後の取組の方向性」では、具体的な内容が記されていましたが、今回の「事業実績」からは、それらに対応がなされたのかどうか読み取れません。・「課題」の記述が、検討すべき事項や実施すべき取組となっておらず、何が問題となっているのかが示されていません。・「今後の取組の方向性」に記されているとおり、継続的な財源の確保がなされることを期待します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度にひきつづき、次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。・ジャパンサーチなどの横断検索システムと連携する。・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。・URLの固定化、二次利用条件の緩和と明示など、活用されやすい形式で公開する。・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。
----------------	--

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
----------------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート実施準備	アンケート実施と公表	事業の評価と改善		次期アンケート実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度から導入した指定管理者制度の効果を検証するために、利用者アンケートを図書館全館で実施しました。 ・図書館を利用していない市民のニーズを把握するために「町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査」を実施しました。 ・図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて、町田市市政モニターに対するアンケートを実施しました。 ・これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ①鶴川駅前図書館で開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置を行いました。 ②10月から電子書籍サービスを始めました。 ③2月から中央図書館で電子書籍を閲覧できるタブレットの貸出を始めました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートや市民意識調査、市政モニターアンケートの結果から市民のニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。 ・開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、タブレット貸出などの新たなサービスが、幅広く市民に利用されているのか検証が必要です。 ・指定管理者による運営の効果の検証が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。 ・検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・過年度にひきつづき、利用者に対し、アンケート調査が順調に実施され、とりまとめられたこと、また、潜在利用者を含めた調査として市民意識調査がなされたこと、そして、それぞれの結果がウェブ上で報告されていることを高く評価します。これらの結果を活かし、他の取組項目の改善または充実がなされることを期待します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・市民意識調査の結果報告書によれば、図書館サービスの認知度に関する設問では、多くの図書館サービスに対して、「知らない」と回答した人の割合が高く、PRに課題がみられます。さまざまな方法を用いて、来館者以外にも、図書館サービスについて周知することを期待します。・データの有効活用、課題の発見と改善、調査協力者への説明責任の観点から、さらなる調査結果の分析と公表も検討してよいと考えます。たとえば、市民意識調査の結果は、利用者アンケート調査と同様に、主に利用した図書館別に分析することが有効かもしれません。
----------------	---

2024年1月26日

町田市立図書館長
中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長
松本 直樹

町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2023年8月8日付文書「2022年度図書館評価の外部評価について(依頼)」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2022年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市生涯学習推進計画 2019-2023』事業実績(2022年度分)における図書館所管分、全14項目について、外部評価を実施しました。

(1) 方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 全取組項目を3グループに分け、グループごとに複数の委員で評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

(2) スケジュール

2023年8月8日	第20期第1回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける
2023年10月6日	第20期第2回定例会でグループに分かれて担当事業について説明を受け、評価案について検討 その後、10月下旬までに各自評価案を事務局に提出
2023年11月21日	第20期第3回定例会で評価案の全体確認及び意見交換 その後、12月上旬までに評価最終案を事務局に提出
2024年1月26日	第20期第4回定例会で評価案と外部評価に関する報告の内容の最終確認及び提出

3 外部評価の結果

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2022 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について評価を実施し【評価】と【関連事項提言等】を記載しました。

4 全体に関わる評価と提言

(1) 全体に関わる評価

図書館による事業実施及び評価は全体として適切に行われていたと評価できます。事業の達成状況は、A が 8、B が 6、C が 2、D が 3 でした(事業により複数指標あり)。2021 年度は、A が 6、B が 9、C が 1、D が 3 であったのと比較すると、それほど大きな変化はありませんでした。2022 年度は、社会に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の影響が、多少和らいだ年でした。その観点からは、さらなる達成が見られるとよかったと考えます。

(2) 外部評価実施全体に関わる提言

外部評価を実施した結果、全体に関わる事項として、以下を提言します。

1) 図書館予算、資料費の確保

図書館に関わる予算は運営、サービスに関わる根幹です。特に資料費は中核的サービスである貸出しを含め、図書館の活動全般に大きな影響を与えます。すでに、2020 年度以降の「町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告」の「全体に関わる評価と提言」で、資料費、図書館予算の増額について指摘をしてきました。

残念ながら、今年度の資料費予算は 47,374 千円であり、昨年度比で多少増加しているとはいえ、依然、十分とはいえません。貸出点数も残念ながら大きく減少しています。9 月の議会定例会では市民から「町田市立図書館の資料購入費の増額を求める請願」(本会議：不採択、委員会審査結果：採択すべきもの)が出されました。図書館として予算確保に向けて積極的な取組みを期待します。

2) 評価の枠組みの検討

現在の図書館評価は、『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績の図書館所管分を対象としております。当該計画は今年度で計画期間が終了します。したがって、評価の枠組みを再考する好機です。現在の図書館評価は、評価指標と評価方法に課題があります。評価指標に関しては、いわゆるインプット指標が多く、アウトプット、アウトカム指標が十分ではありません。事業の成果、効果を知る上でも、評価指標を再検討する必要があります。

また、評価方法に関しては、図書館協議会の評価に十分な時間が確保されていない点が課題です。そのため、事業に対する委員の十分な理解としっかりとした協議を踏まえた評価が

必ずしもできておりません。また、新委員にとって、図書館を十分知る前に評価をしなければならぬという問題があり、大きな負担となっております。以上のような評価指標と評価方法の課題について、図書館協議会を交えて、検討することを期待します。

3)事業改善に向けた取組

多くの事業に関して、図書館の熱心な取組状況が確認できました。しかし、昨年同様、一部事業において、改善の見られない事業がありました。事業が十分展開できなかったことには、事情があったと推察されます。しかし、図書館法第七条の三に「図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とあるように、法律は図書館に改善のための必要な措置を講ずることを努力義務として課しています。この評価を図書館事業の改善の機会とすることを期待します。

5 結び

図書館協議会は、「2022年度図書館評価」の外部評価機関として評価を行いました。現在の評価方法は定着してきましたが、よりよいものとなるよう今後も引き続き改善していく必要があります。図書館評価は、先に述べたように、図書館の活動が少しでもよくなるようになるために行うものです。評価のための評価とならないよう、図書館協議会だけでなく図書館職員のみなさんと一緒に改善していければと思います。

町田市の図書館評価

2022年度事業の評価結果

発行日 2024年2月

発行・編集 町田市立図書館

〒194-0013

町田市原町田3-2-9

電話 042-728-8220

刊行物番号 23-75

庁内印刷